令和4年 結核登録者の状況

1 新登録患者数及び罹患率

(表1)新登録患者数(人)及び罹患率(人口10万対)

区　　分	H30	R1	R2	R3	R4
新登録結核患者数	26	23	24	18	17
罹患率	7.7	6.9	7.2	5.5	5.2
喀痰塗沫陽性肺結核患者数	11	8	12	8	7
喀痰塗沫陽性肺結核罹患率	3.3	2.4	3.6	2.4	2.2
潜在性結核感染症患者数(初感染結核)	8	3	6	8	12

CHECK (表1より) 令和4年新登録結核患者数は17人，潜在性結核感染症患者数は12人であった。

(表2)男女別結核患者数(人)

区　　分	性 別	H30	R1	R2	R3	R4
新登録結核患者	男 性	12	16	13	10	10
	女 性	14	7	11	8	7
喀痰塗抹陽性結核患者	男 性	4	4	8	4	4
	女 性	7	4	4	4	3
潜在性結核感染症	男 性	3	2	3	3	3
	女 性	5	1	3	5	9

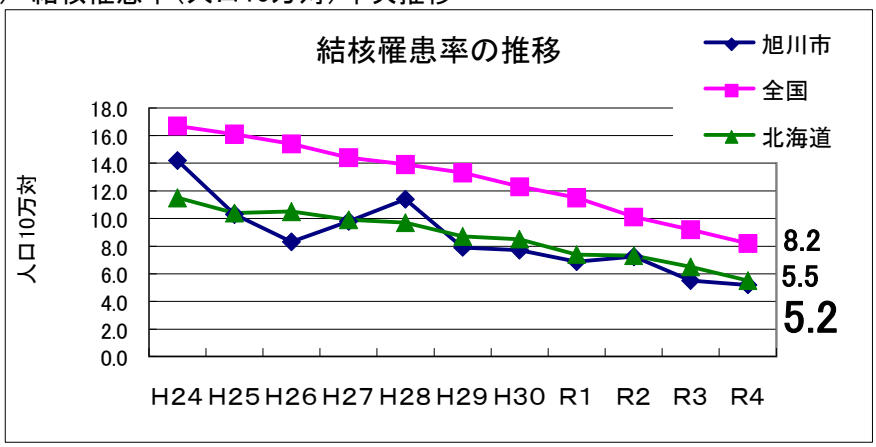
CHECK (表2より) 令和4年新登録結核患者性別比率は男性10人(58.8%)，女性7人(41.2%)とやや男性が多い。

(表3)年齢別結核患者数(人)及び罹患率(人口10万対)

患者種別 / 年齢区分	新登録結核患者		喀痰塗抹陽性結核患者		潜在性結核感染症患者	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
9歳以下	－	－	－	－	1	4.8
10歳代	－	－	－	－	－	－
20歳代	－	－	－	－	－	－
30歳代	－	－	－	－	1	3.2
40歳代	2	4.6	1	2.3	2	4.6
50歳代	1	2.3	－	－	1	2.3
60歳代	1	2.3	－	－	－	－
70歳代	－	－	－	－	3	5.8
80歳以上	13	33.9	6	15.7	4	10.4
計	17	5.2	7	2.2	12	3.7

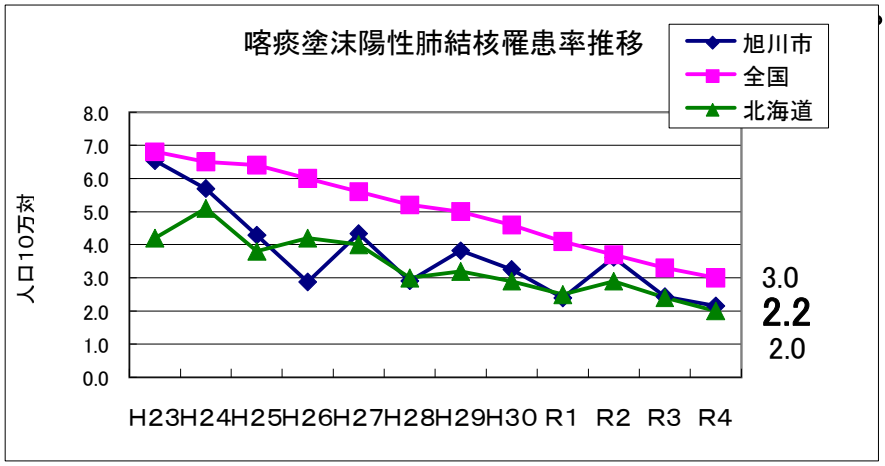
CHECK (表3より) 新登録結核患者の年齢は，80歳以上が最も多く，年齢別罹患率においても80歳以上が最も高い。40歳代の2名については，共に医療従事者であった。年齢別割合では，80歳代以上が76.5%と全体の約8割を占めている。

(図1) 結核罹患率(人口10万対)年次推移



(図1より)
結核罹患率は5.2と，令和3年の5.5よりも減少しており，まん延とされる結核罹患率10未満を6年連続達成している。
罹患率は全国，北海道，旭川市のいずれも減少傾向にあり，6年連続で旭川市は全国，北海道よりも低い罹患率となっている。

（図2） 喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）年次推移



（図2より）
喀痰塗抹陽性肺結核罹患率は2.2で，令和3年の2.4よりも低い値となった。
全道の2.0より高値であったものの，全国と比較すると低い値であった。

※喀痰塗抹陽性肺結核とは，患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり，周囲の人への感染源となりやすい。

2 結核登録者数及び有病率

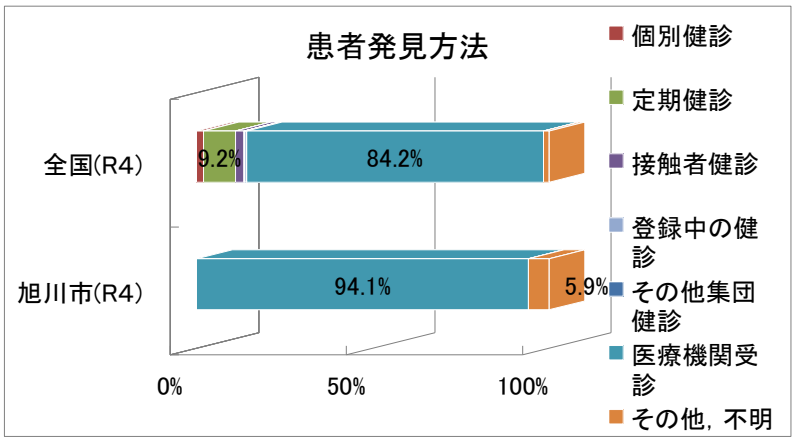
（表4） 結核登録者数（人）及び有病率（人口10万対）

区　　分	H30	R1	R2	R3	R4
結核登録者数	70	62	58	47	40
活動性全結核患者数	21	13	17	11	9
旭川市の有病率	6.2	3.9	5.1	3.0	2.8
全国の有病率	8.3	7.7	6.8	6.2	5.4

CHECK （表4より） 年末総登録者数は40人と，令和3年より7人減少した。うち，活動性全結核患者数は9人であり，令和3年より2人減少した。また有病率も，前年から0.2減少し，2.8であった。有病率は経年的にみると減少傾向であり，全国と比較するといずれの年も全国を下回っている。

3 新登録患者結核病類

（図3）患者発見方法



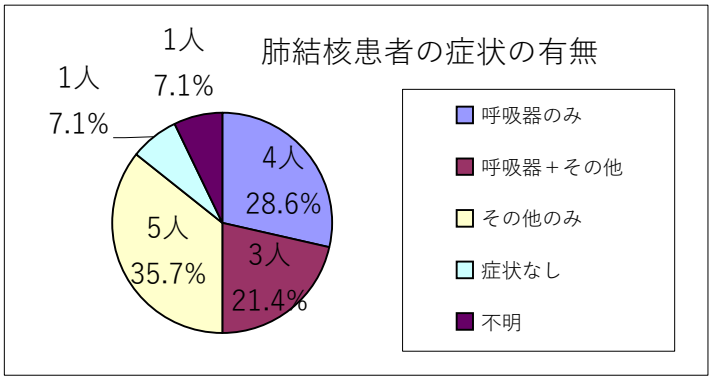
CHECK （図3より）
新登録結核患者17人の発見方法は全国と同様に，医療機関での発見が16人（94.1%）と最も多い。なお，死亡後に肺結核と判明した1人（5.9%）をその他として計上している。

（表5） 結核患者分類　　※新登録患者17人。うち重複診断5名。

	病　　名	人　数（人）	割　合
肺結核	肺結核	14	63.6%
肺外結核	咽頭・喉頭結核	1	4.5%
	粟粒結核	1	4.5%
	結核性胸膜炎	3	13.6%
	他のリンパ節結核	1	4.5%
	他の骨・関節結核	1	4.5%
	皮膚結核	1	4.5%
合　計（延）		22	

CHECK （表5より）
重複診断を含む新登録結核患者延べ22人の結核病類においては，肺結核，咽頭・喉頭結核が14人（63.6%）であった。肺外結核は結核性胸膜炎が3人（13.6%），咽頭・喉頭結核，粟粒結核，他のリンパ節結核，他の骨・関節結核，皮膚結核がそれぞれ1人（4.5%）であった。

（図4） 新登録肺結核患者の症状の有無



CHECK

（図4より）
新登録肺結核患者14人うち12人(85.7%)が有症状であり，呼吸器症状があったのは7人（50.0%）であった。

4 新登録有症状肺結核患者の受診・診断・発見の遅れ（表6）

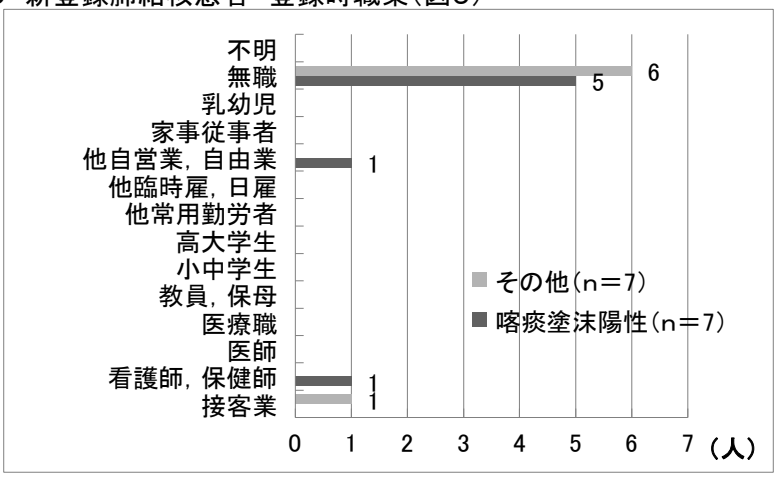
（人）

	H30	R1	R2	R3	R4
総数	21	14	16	9	12
受診の遅れ	2	1	2	2	1
診断の遅れ	1	2	1	3	7
発見の遅れ	2	0	0	2	3

CHECK

（表6より） 有症状の肺結核患者12人のうち，発病から初診までの期間が2か月以上（受診の遅れ）の者は1人（8.3%），初診から診断までの期間が1か月以上（診断の遅れ）の者は7人（58.3%），発病から診断までの期間が3か月以上（発見の遅れ）の者は3人（25.0%）となっている。また，発病時期が不明であった者は2人いた。
診断の遅れの割合が高い理由として，喀痰塗抹陰性で経過観察後に培養陽性が判明し，結核の診断に至るケースが多くいたことが一因として考えられる。
全国との比較では，いずれも全国より高い割合となっている。
※参考：R4 全国 受診の遅れ 19.9% 診断の遅れ 21.5% 発見の遅れ 20.5%

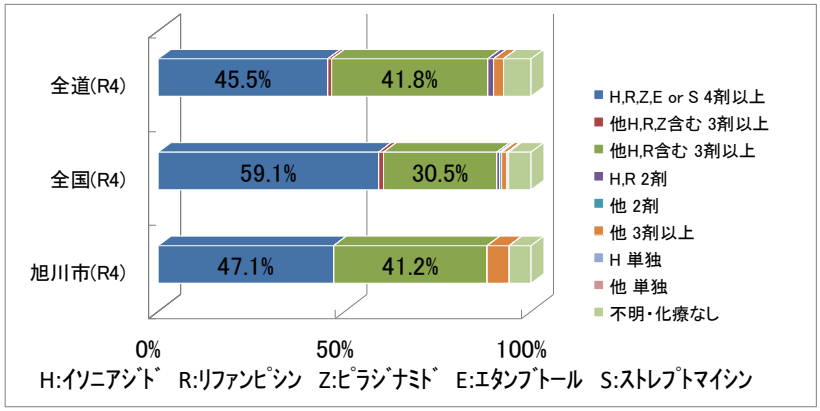
5 新登録肺結核患者 登録時職業（図5）



CHECK

（図5より）
新登録肺結核患者14人の登録時職業は無職が11人（78.5%）と最も多く，接客業，自営業，看護師がそれぞれ1名ずつであった。

6 新登録結核患者化療内容（図6）



CHECK

（図6より）
新登録結核患者17人の化療内容はH,R,Z,EorS4剤以上使用していた者が8人（47.1%），H,R含む3剤以上使用していた者が7人（41.2%）であった。
全国と比べると，4剤以上治療の者の割合が低いが，道とは概ね同割合であった。これは80才以上の患者の割合が高く，ピラジナミドを使用できなかったことによると考えられる。

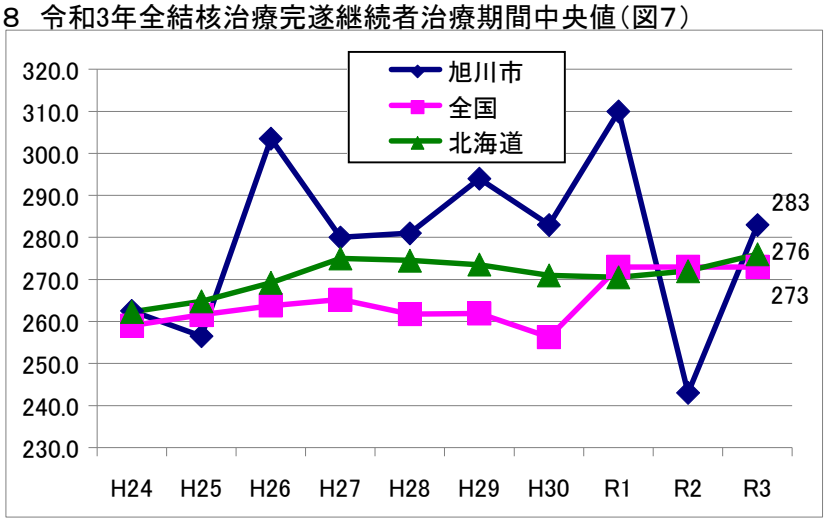
7　薬剤感受性試験結果（表7）

	人数（人）	割合
結核菌培養陽性患者	13	
薬剤感受性試験実施者	12	92.3%
INH耐性	1	8.3%
RFP耐性	0	0.0%
SM耐性	0	0.0%
EB	1	8.3%
PZA	1	8.3%
HRSE全てに感受性	9	75.0%
薬剤感受性試験未実施者	1	7.7%

CHECK

（表7より）
新登録肺結核菌培養陽性患者13人のうち12人（92.3%）が薬剤感受性試験を実施し，INH，EB，PZA耐性がそれぞれ1人ずつ判明している。主要4剤（HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある人は9人（75.0%）となっている。
未実施者1人は死亡後に肺結核と判明したため，未実施となっている。

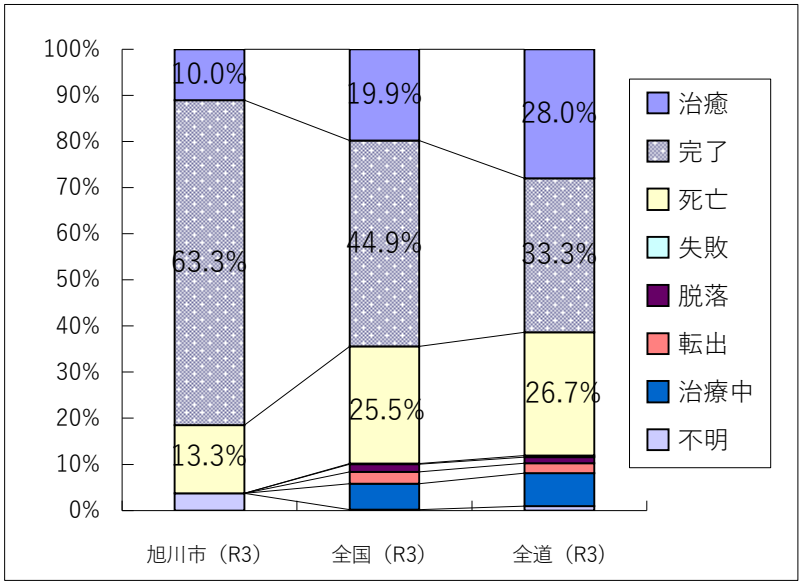
8　令和3年全結核治療完遂継続者治療期間中央値（図7）



CHECK

（図7より）
令和3年新登録患者の全結核治療完遂継続者治療期間中央値は283日であった。昨年は4剤治療の患者も多く，243日と治療期間が大幅に減少したが，R4年は例年並みの数値に戻っている。

9　令和3年新登録活動性結核患者治療成績（図8）



CHECK

（図8より）
令和3年新登録活動性結核患者27人の治療成績において，治癒は3人（10.0%），完了は19人（63.3%）で，治療成功率は73.3%であった。
また，死亡が4人（13.3%）のほか，感染性のない結核のため，主治医が治療しないと判断された者が1人（3.3%）いた。
失敗は0人で，特定感染症予防指針の目標値である5%以下を満たしていた。